

道徳

先

だつてのことです。東京都内の小学校で「道徳授業地区公開講座」が開催され、道徳教育と青少年赤十字活動の結びつきについて講演を頼まれて行ってきました。多くの保護者の方々に参加して貰うために土曜日の午前中に催されたプログラムは、一校時目は教科の授業、二校時目は全学級で道徳授業そして三校時目が講演会に当てられていました。今時の小学校ではどのような道徳の授業がなされているのか、私も二校時目の道徳の授業を一年生から六年生までの七学級、急ぎ足ではありましたが興味深く参観させて頂きました。先生方はそれぞれ手作りのカードや紙芝居、スライドなど様々な工夫を凝らして授業を展開していました。児童達も活発に意見を述べていました。先生方も児童達もよかつたのですが、参観に来ていた保護者の行動に三つほどの疑問が残りました。

一 つ目は私語です。流石に教室内で授業参観をしている保護者の方々のほとんどは私語などしませんでした。廊下にいるお母さん方の私語が教室の中まで聞こえてくるのです。廊下で幾つかの輪が出来ていて、ママ友たちが雑談をしているのです。そしてあるグループでは、何かを糾弾するような深刻な様子も見て取れました。その人達は、教室内の授業など二の次・三の次という状態で私が各教室を一巡して戻って来ても、そのおしゃべりはまだ続いていました。

二 つ目はコートです。廊下は多少寒かったのですが教室の中は暖房が効いて温かでした。しかし参観している保護者の方々は防寒コートや外套を着たままで参観しているのです。先生も子ども達も誰一人として教室内でコートを着ていません。すぐ出て行くのでコートを着たままなのかと思いましたが、我が子の授業を最初から最後まで参観する人がほとんどでした。室内に入ったらコートを脱ぐ習慣が

なくなってしまうのでしょうか。大学の講義でもコートの類いを着て受けている学生が大勢いると聞きます。お母さんの中には襟巻きすら付けたままと言う人もいました。ファッションなのでしょうが、それは外でのファッションです。襟巻きで思い出すのは、振り袖で成人式に参加する女の子達のあの白いシヨールです。式場に入り椅子に腰掛けた時ですら、その首巻きをしたままで式辞や祝辞を聞いているのです。成人式の振り袖姿に白いシヨールは付き物で、何処に行っても外すものではないと固く信じているのでしょうか。話を戻しましょう。

三 つ目に気になったことは、傍若無人な振る舞いです。教室の入口で中の様子をきよろきよろと見ていたあるお母さん。ママ友を教室の奥に見付けました。そのママ友も彼女に気付き、こちらにおいでと手招きしました。入口にいたお母さんは、参観者の前を何の断りもなく通って行きました。沢山の保護者の方々がいてママ友の隣に空きがなかったのですが、隣の人を押し退けるように友達の横に入り込みました。そして潜み声で何かを話し出したのです。流石に近くの保護者の方に注意されましたが、その時の彼女の不機嫌な顔は、周りの雰囲気壊していました。ノートルダム清心学園の理事長渡辺和子氏がこんなことを話されています。「不機嫌な顔をすることは、環境破壊です」

正

この日は道徳授業公開講座なのです。子ども達の道徳心をどのように培うか、先生方も多くの保護者の方々も真剣なのです。もう一度自分の道徳心について見直して頂きたい大人もいます。子どもの道徳心は大人の行動から学ぶのではないのでしょうか。大人である教師も十分に気を付けたいものです。

(元青森県立北斗高校校長)